

第3回 青森市総合計画審議会 第3分科会 議事要旨

- 【日 時】 令和6年1月26日（金） 10：00～10：45
- 【場 所】 アップルパレス 2階 マリアージュ
- 【出席者】 佐々木 淳一 分科会会長、小山内 敬子 委員、佐藤 一成 委員、
本田 明弘 委員 計4名
- 【欠席者】 佐々木 重光 委員、立木 祥一郎 委員 計2名
- 【オブザーバー・傍聴者等】 1名
- 【関係部局】 佐藤市民部長、泉環境部次長、加福保健部次長、清水都市整備部長、
石村浪岡振興部次長、武井教育委員会事務局教育次長、
一戸企業局水道部次長、佐々木企業局交通部長、
長内青森地域広域事務組合事務局長 計9名
- 【事務局】 太田企画調整課長、杉田企画調整課主幹、工藤企画調整課主事 計3名
- 【配付資料】

- ・次第
- ・今後の主なスケジュール（基本構想答申まで）
- ・新総合計画と現総合計画の基本構想構成比較表（案）
- ・課題（案）及び目指すべき方向性（案）の取りまとめ
- ・「青森市総合計画 基本構想」素案
- ・青森市総合計画の体系図イメージ（仮）

【会議概要】

- 審議案件に入る前に、前回分科会の中で質問があった「札幌市の寄せ雪を除去する社会実験」について、内容を事務局から説明。
- 事務局から、今後の主なスケジュール、基本構想の構成案並びに各行政分野の課題（案）及び目指すべき方向性（案）の取りまとめについて第1回総括分科会において審議された内容を報告した後、基本構想素案の文章案について説明し、各委員が意見を出し合った。

○審議、質疑応答の概要

基本構想の構成案、課題（案）及び目指すべき方向性（案）の取りまとめについて

（発言なし）

基本構想素案の文章案についての議論

（委員）

- ・(1)の「コンパクト・プラス・ネットワーク」というワードについて、非常にいいキーワードと思うが、ここでの「ネットワーク」は、必ずしも市内だけではなく、例えば県内のいろんな地域との交通ネットワークも含んでいるという理解でいいか。

(関係部局)

- ・「コンパクト・プラス・ネットワーク」については、市のまちづくりの施策として長年掲げているもので、主に市内のネットワークとして市の中で拠点を整備し、ネットワークで結ぶということが主なポイントとして捉えている。
- ・例えば市から外への県都の中でのネットワークという点については、(4)の「交通環境の充実」のところで網羅されると考える。

(委員)

- ・市のインフラを考える上では、県の他の地域との行き来を念頭に入れて置くことはとても大事だと思うのでキーワードを考えてもらえればと思う。
- ・「(6) 脱炭素・循環型社会の実現」について、今、様々な動きがあり、特に青森市の場合、港湾を使った脱炭素の取組の話が賑やかだと思うが、最初の2行というのは寂しいかなという気がする。

(関係部局)

- ・令和6年度中に地球温暖化対策実行計画を策定する予定で、国、県の目標が見直されたことにより市の目標を検討しているところであり、その計画中で検討していくことになるが、基地港湾の関係で風車が建つということではないので、市全体の地球温暖化ということで計画を検討、練っているところ。

(委員)

- ・油川に風車が建つという話ではないが、青森の沿岸域に洋上風力を形成するためには港がとても重要。その意味で青森市の役割はとても大きいと思う。それに伴って人も集まるし、いろいろな循環が出てくる。それを好機として、設備投資なり、人を集めたりするということを意識していくということが書ければとてもいい。

(事務局)

- ・資料4は基本構想ということで、10年間の抽象的な目標ということもあるが、GXに関しては、第1分科会の管轄になるが、資料4の1ページの「(2) GXの推進などにより、産業の育成・集積に取り組みます」というところと、資料4の4ページから5ページの「(4) 社会情勢の変化に対応した交通環境の充実」の「県や関係機関等と連携して、道路、鉄道、空港、港湾それぞれの機能充実と連携強化を図ります。」という表現で、間接的ではあるが記載している。

(委員)

- ・第1回、第2回の分科会に参加し具体的な話をしたが、バランスよく、非常にコンパクトにまとめていただいたという印象がある。
- ・(6) 脱炭素・循環型社会の実現について、今は、冬は灯油や化石燃料に頼らざるを得ない

ような生活になってしまうが、脱炭素というのは、そこからエネルギーをシフトしていかなければならないということであるため、脱炭素というだけではなく、エネルギーというキーワードを入れられたらいい。

- ・「(2) 災害防止・雪対策」について、能登半島の地震を受け、青森でもいつ起きるかわからないという状況がある。災害は一言しかなく、ここに地震や水害などのニュアンスを入れたほうがいい。地震により、火災、津波、地盤の液状化や隆起などがあつたときには、建物がいくらしっかりしていても地震を止めることはできないため、地震や災害があつたときに※レジリエントである必要がある。

※レジリエント・・・「弾力性のある」「回復力のある」

- ・災害について、普段からの備えなどというところもしっかり書く必要があると思う。
- ・「(5) 未来につなぐ自然環境の保全」について、維持や保全というメンテナンス中心になるが、どうしても守るようなイメージがある。文章中で「資源の適切な利活用」と書いているが、ある資源をうまく利用することによって経済も回り、環境を守ることができるので、タイトルに資源の利活用的なニュアンスを入れられないか。

(事務局)

- ・いただいた御意見を参考にして、総括審議会で調整した事務局案をまた御審議いただく方向で対応したい。

(委員)

- ・第2分科会「人をまもり・そだてる」に関して、青森の高校生が全国レベルで活躍しており、先日、知事と議論をしていた子どもたちは全国レベルでプレゼンテーションして賞をもらっている。そういう子たちを育ててあげる仕組みがあると全然違うので、子どもたちに対する表彰制度など、市として盛り立てるように一言入れていただければいいと思う。

(事務局)

- ・今回は、第1章、第2章についてはお示ししていないが、シビックプライドやふるさとを愛するというような観点での記載がある。御意見があつた表彰等の制度については、具体的な取組や主な取組の中で検討すべき事象と考えている。若者が活躍できる場所や環境作りという言葉にも意を用いて第1章、第2章のほうでも調整させていただきたいと思います。

○今日の意見の取扱い等の事務連絡を行い解散。